

令和元年度 十勝地区の研究活動

研修副部長 士幌町立士幌小学校

校長 佐藤 育子

1. はじめに

十勝小・中校長会は、帯広市を除く十勝管内16町2村の公立小中学校に所属する97名の会員で組織されている。毎年8月に開催される教育研究大会では、研究主題『『夢大陸とがち』から、新たな知を拓き、志高く未来を創り出していく子どもを育む小・中学校教育の推進』に基づき、組織マネジメントやカリキュラム・マネジメントなど、学校経営の最高責任者としての経営理念や指導性を明確にし、十勝の地域性を生かした学校経営の在り方について研究を深めている。



2. 研究計画

(1) 研究の方針

- ①教育に係わる諸動向を的確に把握し、研究活動を通して会員の資質向上と教育諸課題の究明・解決に努める。
- ②町村、方面における研究の推進を図るため、必要に応じて教育情報を提供するなど、十勝教育の充実・発展に努める。
- ③各種研究大会への積極的な参加促進に努める。

(2) 研究主題

「夢大陸とがち」から、新たな知を拓き、
志高く未来を創り出していく子どもを育む小・中学校教育の推進

(3) 研究領域と研究課題

| 分会 | 研究領域 | ○研究課題 | ●本年度の研究内容 |
|----|-----------|---|----------------------------------|
| 1 | 組織・運営 | ○「チームとしての学校」や「地域とともにある学校」の創造を図る組織・運営と校長の在り方 | ●優れた指導力と応用力のあるミドルリーダーや管理職人材の育成 |
| 2 | 教育課程 | ○21世紀型能力である基礎力・思考力・実践力等を育む教育課程の改善・充実と校長の在り方 | ●これからの社会に求められる資質・能力を育む教育課程の編成・実施 |
| 3 | 教育課題・危機管理 | ○今日的な教育課題に適切に対応する学校づくりと校長の在り方 ○様々な危機に対応できる安全・安心な学校づくりと校長の在り方 | ●未来を切り拓く力を育む進路指導、キャリア教育等の推進 |

3. 研究の概要・研究活動等

(1) 十勝小・中校長会教育研究大会の開催

■期 日 令和元年8月1日(木) ■会 場 幕別町(十勝教育研修センター)

■全体会 道小提言概要説明

テーマ「『生きる力』を育てる防災教育の充実と校長の在り方～安全で安心な信頼される学校づくり～」

■講 演 演題「地域とともに創る北海道型の防災教育を考える～いのちを護るために～」

講師 日本赤十字北海道看護大学 教授 根本 昌宏 氏

■分科会 3分科会(①組織・運営 ②教育課程 ③教育課題・危機管理)

| 分科会 | 研究領域 | 分科会のまとめ |
|-----|-----------|---|
| 1 | 組織・運営 | ○目指す人材像を明らかにし、ねらいを持ったコミュニケーションを基に立場を与え、指導と助言を通じた育成にチームで取り組む環境づくりを推進することが重要である。 ○校長の強いリーダーシップで、教員育成指標をはじめとする現有的人材育成資源の有効活用を図り、ほめて伸ばすことを基本にネクストキャリアをにらんだスキルアップと意欲付けを推進する。 |
| 2 | 教育課程 | ○学校間の連携が教育課程の編成・実施やその改善・充実には欠かせない。そのためには、校長間の連携を密にするとともに、学校運営協議会との連携を高めることで、地域を巻き込んだ教育課程の編成・実施につなげる。 ○教職員とのコミュニケーションを大切にし、校長が明確な方針や目指す方向を示すことで、教職員の取組が具体化する。教育課程の改善・充実に向けても、校長がリーダーシップを発揮して、教職員の取り組むべき方向性を束ねていくことが重要である。 |
| 3 | 教育課題・危機管理 | ○同じ義務教育でありながら、小学校と中学校の間には壁が存在する。その壁をそのままにしておけば、これからの時代において更に大きな壁となっていく。そのような中で、小中一貫やコミュニティ・スクール等が進んでいるが、今こそ、校長のコーディネート能力を発揮する必要がある。校長の「動かす」「つなげる」「関わる」といった力は、今まで以上に求められる。 |

(2) 方面校長研修会の開催

(3) 第71回全連小研究協議会秋田大会への参加

※6名参加

(4) 第62回道小教育研究大会胆振・苫小牧大会への参加

※30名参加

(5) 第70回全日中研究協議会大会群馬大会への参加

※5名参加

(6) 第61回道中教育研究大会岩見沢大会への参加

※14名参加

(7) 第63回道小教育研究大会オホーツク大会 第9分科会「学校安全」の提言に向けた研究の推進

(8) 全連小各種委員会調査への協力

(9) 情報紙等を通じた教育情報の提供

4. おわりに

本年度は、第17次教育研究の最終年次であり、今後、第18次教育研究3か年計画を策定する予定である。今後も、「子どもの成長の歴史に責任を負う」という本校長会の実践指標を念頭に、管内各学校の学校力の向上に資する研究活動の充実に努めていきたい。